

〈会員の皆様へ〉

今年の秋は、日本に長く（3ヶ月近く）滞在しましたが、その間、10月に1週間ほどカナダへ行ってきました。

ヴァンクーヴァーのブリティッシュ・コロンビア音楽大学でマスタークラスとリサイタルをするためです。招いてくれたサラ・デイヴィス・ビュックナー教授は、昔、私と同じころにあちこちのコンクールを受けていて、彼女自身、優れたピアニストですが、24年前モスクワでの私の、ブラームスの「パガニーニ変奏曲」を——自分の出番の直前だったにもかかわらず聴き、またその後、矢代秋雄のCD（ピアノ協奏曲）も聴いて、こういう人にもかかわらず聴き、またその後、矢代秋雄のCD（ピアノ協奏曲）も聴いて、こういう人にもかかわらず聴き、またその後、矢代秋雄のCD（ピアノ協奏曲）も聴いて、こういう人にこそマスタークラスをしてほしいと招待を決めたそうです。

私も、実際に会ってから、そう言えばモスクワで演奏後、半ば放心状態(?)で握手を求めてきた人がいたことを思い出しましたが、20年以上も思い続けていたとは、本当に感慨無量です。

マスタークラスを受けた学生達は、いわゆる西洋人の他、中国、フィリピンなどアジア系の人も多く、それぞれ個性的で、日本の学生と全然ちがいで、本当に弾きたいという気持ち伝わってきて、とても楽しく、教えがいがありました。またぜひ、行く機会があればと思っています。

今回は、盛岡と富山でもコンサートがありましたが、その時に地元の小・中学校を訪れてミニ・コンサートをするという新しい試みをしました。今、世界的に景気が悪く、暗い世の中ですが、そういう時には、お金、儲けという形での見返りのないものとして、まず、文化予算が削られてしまいます。しかし、文化・芸術というものは人間が生きてゆくのに、必要不可欠なもの、人間のいちばん純粋な心に直接訴えかけるものであり、それがないと本当に貧しい心になってしまいます。こういう時代にこそ、私に何かできることはないかと考え、今年から始めました。感受性の強い子どものうちに体験したことは、一生忘れることはありません。実際、子どもたちは、初めての経験に目をまん丸に見開いて聴いていたようでした。演奏後の質問コーナーでは、特に、小学生の方が先を争って手を上げていました。私の蒔いた小さな種が、やがて大きく育つことを願っています。このコンサートの様子は世話人の、澁谷さんがリポートを書いて下さいました。どうもありがとうございました。

ふらんす plus のリサイタルは、ルッセルのような、あまりなじみのない曲にもかかわらず、熊谷さんをはじめとして、多くの世話人の方々の多大な御尽力によって、以前にも増して更にとくさんの方々に聴いていただくことができました。ここであらためて、心より御礼を申し上げたいと思います。

また、地方のコンサートでは、盛岡の会員の渡辺信之さんをはじめ、多くの会員の皆様にお世話になり、おかげさまでとても気持ちよく弾くことができました。ほんとうにどうもありがとうございました。

この秋に発刊された青柳いづみさんの著書『我が偏愛のピアニスト』に、私のことが取り上げられています。会員の高井延幸さんが同書の紹介も兼ねて、感想をお寄せくださいました。高井さん、ありがとうございました。

このロンドン便りが皆様のお手元に届くころは、新しい年ですね。

新年もまた、いろいろなコンサートが予定されています。どうぞ、よろしく願いいたします。

ホワイトクリスマスロンドンのロンドンにて

岡田博美